

地域における日本語支援

～対話・協働・相互理解について考える～

外国人住民の増加にともない、地域の日本語支援の重要性がますます高まっています。その中で、日本語教室では「多様性を知り、お互いを尊重し、学び合い、助け合う」活動をどのように進めていけばいいのでしょうか。

本研修では、対話と協働の視点から相互理解を深める日本語支援を考えます。

研修概要

- 日時** 2026年 2月14日（土）
13:30～16:30
- 会場** 京都テルサ A会議室（東館3階）
- 対象** 地域で日本語ボランティアとして活動している方
- 定員** 40名（先着順）
- 参加費** 無料
- 申込** WEBフォームより
<https://forms.office.com/r/BAGtamkRgU>
※申込締切：定員に達し次第終了



研修内容

- ・日本語学習支援者の存在の重要性
- ・多文化共生の地域づくりにつながる対話的な学習活動の体験
- ・対話的な学習活動を支えるコミュニケーションスキル：「聴く」と「待つ」

講師紹介 萬浪 絵理 まんなみ えり 氏

千葉市地域日本語教育推進事業総括コーディネーター
NPO法人国際活動市民中心（CINGA）理事

就労者や留学生対象の日本語教育を経て、地域日本語教育に軸足を移す。

千葉市などの自治体や国の委託事業にて、コーディネーター・アドバイザーとして活躍。

「人とつながるための日本語教育」をテーマに、教材開発や人材育成にも取り組む。

主な教材：「わたしをつたえるにほんご CINGA版」

主催：京都府国際センター

共催：京都にほんごRings

きょうと地域創生府民会議 協賛事業
文部科学省 令和7年度「地域日本語教育の総合的な体制づくり推進事業」活用

